

ながの環境パートナーシップ会議  
第8回 幹事会 会議記録

I 日 時 平成22年5月26日(水) 18時から21時

II 場 所 会議室18(市役所第二庁舎10階)

III 出席幹事 14人

(高木、塚田、弓場、河西、佐々木、高野、田中(昭)、錦織、橋本、堀池、水野、峯村、山口、渡辺)

IV 欠席幹事 2人

(田中(守)、傳田)

V 会議内容

1 新規プロジェクト審査

・ ワークショップの開催内容

4月25日に開催。参加者10名。「自然」と「まちづくり」のグループに分かれてワークショップを行った。そこで、6つのプロジェクトが提案された。提案内容は以下のとおり。

- ①スキー場跡地の自然復元プロジェクト
- ②環境情報バンクプロジェクト
- ③子供の環境学習支援プロジェクト
- ④万有引力エネルギー活用プロジェクト
- ⑤緑のカーテンプロジェクト
- ⑥環境情報発信プロジェクト

このうち、⑤は幹事会へ提案書を提出するまでに至らず、⑥は②と統合して提案することとなった。また、③は提案内容の一部を分離し、ウェザーステーションプロジェクトとして本幹事会に提案された。審査方法は幹事会出席幹事12名(早退者等あり)が1プロジェクトに持ち点10点、120点満点中60点以上をプロジェクトとして採択した。結果は以下のとおり。

- ①103点 ②57点 ③114点 ④32点

よって、①、③のプロジェクトが採択された。今後、6月5日の総会の際に新プロジェクトとして平成22年度の計画を出していただく予定。なお、ウェザーステーションプロジェクトについては、今後の幹事会で再度計画を精査の上提案いただくという結論にいたったため、不審査とした。審査の際の質疑については「VIII 主な質疑」を参照ください。

2 プロジェクトチームの活動状況と今後の活動について

①太陽エネルギー普及促進プロジェクト

活動状況と5月29日の浅川小学校出前講座のお知らせ(P1)

②市民の森づくりプロジェクト(P3)

活動状況と今後の予定

③食品トレイ・レジ袋削減プロジェクト(P4)

活動状況と平成22年度方針等について

3 第2回総会について(P5~P30)

① 会員出欠状況の確認 5月26日現在会員98名 出席32名欠席委任30名  
計 62名

②議事資料確認。H21 活動報告、H22 活動方針は各チームで再度確認をお願いしたい。総会の当日は各プロジェクトチームリーダーから4分くらいで説明をお願いいたします。H21 予算執行状況については、運営費の清算とニュースレター等の支払い後、監査を受け、総会に案を提出する。H22 予算については、ライトダウン実行委員会への負担金を30,000円広報費にいれ、各プロジェクトチームに確認をして総会に案として提出する。

③役員選挙の立候補状況

幹事6名 監事2名 立候補者は下記のとおり。(敬称略/順不同)  
幹事 高木 直樹 安藤 和夫 監事 小山 勝宏  
中村 安治 金井 三平 監事 海沼 健一  
渡辺 ヒデ子 弓場 法

総会において選挙を行い、選任される。

④投票の行い方と投票用紙・集計・結果発表について

役員選任規程の確認と投票用紙・集計についての確認をした。

4 総務広報業務委託契約について(P35.36)

H22年6月1日からH23年5月31日までの委託契約について、仕様書案と契約書案の内容により委託することが承認された。なお、発注者はP会議の代表幹事、受注者はNPO法人みどりの市民の副代表理事 渡辺ヒデ子氏になる。(民法第108条)

VI 今後の日程等

1 監査・正副代表幹事会

(1) 日時・場所：6月2日(水)18:00～ 環境政策課

(2) 内容：平成21年度決算監査・総会について

2 第2回総会

(1) 日時・場所 6月5日(土)9:30～ 長野市ふれあい福祉センター5階ホール

(2) 内容 平成21年度活動報告・決算報告、平成22年度活動方針・計画・予算等

VII 主な質疑

○新規プロジェクト(事業提案者に説明いただき、お答えいただいたもの)

①スキー場跡地の自然復元プロジェクト

・大岡の聖山パノラマスキー場の跡を復元させるというものだが、地元の合意が得られるかが心配。

⇒地元の住民の方もメンバーに入っているし、多少時間はかかってもなんとか合意はえられるのではと思う。

・チームがどこまでやって、地元の人がどこまで関わるかが見えない。やりたいことを広報して勉強会を開くのは重要だが、ポットに苗を植えて育てるとするのはどちらかというのと地元の方をお願いすることになるか。

⇒チームでもやるが、山村留学に来ている子どもたちや小学校とも協力していければ。

・予算を40万円を出していただいているが、今日どのくらいの提案が通るかによるが40万円は厳しいだろう。減額されたときにも対応はできるか。

⇒ 回数を減らすとか、無料の講師を連れてくるとか、方法はあると思う。

・自然復元のさせ方は見えるが、将来利用は考えているか。

⇒ ゾーニングによって、下の方はブルーベリー園にしたり山菜などがとれるゾーンを作ったりすることを考えている。問題は、パノラマホテルの維持管理。冬季の利用がほとんどないので、自然観察をしたり、スノーシューであがったりできる、観光客を誘致して冬場もボランティアが活動できるようにしたいと考えている。

⇒市民の森づくりチームでは市民が自由に自然と触れ合える森づくりをしている。もしここが将来的に自然観察が出来るような場所になればいいと考えている

⇒NPOやボランティアの人たちとの連携を作るのも目的にしている。

・市の方の行政補助とかは？

⇒市の観光課に話をしているが、まだ何も返事は無い。

⇒事務局より、観光課に確認したところ、まだ全体計画をどうするかを検討中であり、市民の方からこういう動きがあるということは伝えてあるが、そこでとまっている。

・借地料は苗を植えるときの場所の代金と思われるが、これは毎年借りていくのか。

⇒苗を育てている間は借りるが、いい場所があればそちらを使えるが、当面は表土の状態も悪いので、借りることになるだろう。

⇒今市民の森で活動しているので、そこに入ってやることも出来なくはないなかと思う。

・市の観光課にどこまでお話してどんな返事が返ってきているのか、どんな雰囲気なのか。

⇒（事務局）先週の時点で観光課に確認したが、いろいろな提案がだされているがまだ全く何も決まっていない。このような動きがあると話したが、特に反応は無い。

⇒このスキー場は、地元の方の検討委員会で平成20年度に廃止が決定されたと思う。

ただ、パノラマホテルは継続しようということになったが、地元の方と市、特に地元の方との協議はしっかりしていただく必要はある。

## ②環境情報バンクプロジェクト

・環境情報といってもたくさんある。今後、こういった情報をどのように発信していくのか、そのビジョンはあるか。

⇒今消費者が欲しい環境情報を探するのは大変難しい。例えば家を建てる時どんな家が環境によいのか。そういうことが選べるようなカタログやホームページを作成したい。

・WEBが中心だが、立ち上げてからは専任の人が張り付かないとやれないと思う。スキルを持った人がずっとボランティアで出来るのか。これからずっと発信していくとなると、長いスパンで考えなければいけないのでは。

⇒どのくらいの頻度で更新できるかが分からない。メンバーでやってみて、それが無理なら考えようと思っていた。

⇒情報があまりにも氾濫しているということからこの話が始まった。全部の環境情報について発信することは出来ないので、しばってやってみたらどうか、ということ。家を建てるということなら、太陽チームと連携ができるのではと考えた。

⇒これから立ち上げるホームページも、環境情報が氾濫しているものの中の一つになってしまうのでは。立ち上げようとしている環境総合センターとの連携のことなど、簡単なようで難しいのではと思う。

⇒これは逆に考えればP会議のエコマークみたいなもの。時間をかけて増やしていくという発想。アメリカでは自分たちで調査してそれを斡旋して家をたてるNPOがある。業者から補助金もあって、安く建てられる。そのNPOで家を建てるとそれなりに良い家が建つ。そういう風に考えると、P会議版エコ認定制度みたいになればやれないことは無い。基準づくりから始まって、片手間では出来ないと思うが。

⇒建築の専門家から言うと、それはかなり難しい。窓一つでも難しい。自分たちで判断できるレベルでとりあえず取組んでスキルアップしていくほうがいいのではと思う。一度、自分たちのできることを実験されてもいいと思う。

・「環境情報バンク」という名前は総合的に情報を発信する、という意味にとれるが。

⇒今の環境情報は、発信者側の思いが強すぎて、受ける側に立っていない。消費者の視点というのは重要だと思う。

## ③子供の環境学習支援プロジェクト

- ・イメージは単発でなく、継続的に支援していくプロジェクトということか。いままでおこなってきたものを、これからp会議のプロジェクトとして行っていきたいということか。  
⇒エコクラブのサポーターという人たち（子供はメンバー、その保護者をサポーターといいます。エコクラブはメンバーとサポーターで構成しています。）は横のつながりを求めている。そのサポートもしたい。
- ・7月の交流会でソーラークッカーを使うことになっている。この部分で既存の太陽チームと協力もしていくということも考えるのもイメージにあるか。  
⇒ 昨年までの内容だと、ドラム缶風呂を借りてきて子どもたちが入ったり、簡易トイレ（テント式のもの）を設置したり、非常食を作るときに地区の人の指導を受けながら作った。（様々な人の協力を得て、交流会のメニューを作っている。）
- ・メンバーをみると、信大教育学部の方がいる。教育学部との連携もあるか。  
⇒学生に協力してもらっている。渡辺隆一さんは教育学部の先生で、ミーティングも先生の研究室で行っている。イベントごとに多数の学生が応援してくれている。

#### ④万有引力エネルギー活用プロジェクト

- ・引力があって、そこに力が働いているのは事実。力が働いて物が動いたときにエネルギーが発生するが、動かないとエネルギーは作れないのでは。市民会館を作るときに下に何かをおいても、コンクリートを打てば物が動くのでエネルギーが生まれるかもしれないが、出来上がった市民会館の下に何かをおいてもエネルギーが出来るのかなと思う。  
⇒ 出来るかどうか分からないが、シートをひいて、そこに圧力をかければ熱が出るのか、エコキュートなんかもそうだがそこから電気エネルギーを発生させるとか、そういう物質があるのではないかと思う。  
⇒ 圧力を加えることで空気が縮んで熱をだすことが出来るが、動いてないと。
- ・要は、運動エネルギーなのでは。  
⇒運動エネルギーをそのまま使うのではなく、それを他に変換して活用できるものがあるのではないか。  
⇒そのことについて勉強していこうというプロジェクトチームを作るのであれば納得するしおもしろいかもしれない。ただ、市民会館の下になにかを入れるのはスケジュールもあるので今の時点でかなり研究が進んでないと難しい。そこはご理解いただきたい。  
⇒市民会館はいつできるか分からないし、夢みたいだと思われるかもしれないが、そういうことも可能ではないかと思う。素人的に、力のエネルギーを他のエネルギーに変換できないかと。身近に懐中電灯があるが、あれは永久磁石を使って振れば電気がつくのがある。動かすにはエネルギーがいるが、真空状態にして半永久的に動かすとか、身近なものでは現にあるので、そういうものも可能ではないか。まずそういうのを研究するプロジェクトを作る。それを実用化するには企業や大学とも協力をしながらできないとできない。添付資料にあるように、酒井教授は万有引力の活用に関心を持っている。身近にある地球の引力を活用する研究プロジェクトを作りたいと考えている。  
⇒理論上のおもしろさは良く分かる。現実的にエネルギー計測が出来ないからやってみないと分からない。必要経費に13万とあるが、これで十分ではないだろうし、無くてもいいものと理解した。  
⇒人材をどうやって集めるかが課題。おもしろそうじゃないか、といってくれる人を探したい。そこから始まるんだと思う。

#### ◎ウェザーステーションプロジェクト

- ・環境総合センター設置チームが進めてきたウェザーステーションの設置・運営がだめになったというお話なのですが、それはどういう理由でだめだったのか、今後環境総合センター設置チームが今後どうなっていくのか、そのへんが理解できない。ひとつの

プロジェクトでだめだったのを他のプロジェクトでやられるような印象をもった。そのへんを整理して話してもらいたい。

⇒ウエザーステーションについては、チームのプロジェクトの中の事業の一つになる。

リーダーが積極的にすすめていて、幹事会のなかでも（設置について）認められたが、運営をしていくのは難しいのではないかということになり、そこで今回の子どもの環境学習支援の中で支援の方法の一つとしてグローブという世界とつながる活動ができるのであれば、そこでやっていっていただいたほうがいいのではないかと、ということになり、このウエザーステーションプロジェクトを立ち上げて私たちがやろうとしたことをつなげていってほしいとこのようにさせていただいた。

⇒それは前回の幹事会以降の話か。

⇒そのとおり。ウエザーステーションプロジェクトが立ち上がったのもその後。

⇒既存のものと新規のものが一緒になってるからいけないのだが、既存のプロジェクトで46万円の大きな予算が通ったものを事情があるからやめたというのを幹事会になにも報告がない。自分たちができなかったから46万を他のところで使ってもらって、というのは納得できない。幹事会ではセンターチームでやるから認めたということなので、だめだったならそれを一旦返上するべき。余っているから他の人たちにそのまま渡すのは、幹事会の意味が無いと思う。

⇒それであれば、この幹事会で一旦取り下げて、新しいプロジェクトで考えるということにしていれば良いと思う。

- ・そもそも生涯学習センターでやる必然性がよく分からない。もともと環境総合センターの延長上で生涯学習センターを考えていたと思うが、ヒートアイランドを計りたいわけではないのではないかと。

⇒ヒートアイランドであるそこで計測してそのまま参考にするのは難しいと思う。屋上は照り返しも強いと思われるので。数値はそんなに重要視していない。数値を測って、データを蓄積して事務局に送る、そうやって子どもたちが世界的に関われる、そこから、このウエザーステーションだけでなく、他の環境活動にも広がっていければ、そういう環を作りたい、というのが目標。

⇒場所はこだわらないのか。

⇒生涯学習センターに環境学習コーナーがあって、管理をするというのも、月に1回データを取りに行くのは子どもたちが出来ても、そこに機器が置いてあるので、何かあったときには環境学習コーナーは市の環境政策課で管理しているので、連絡をもらえる、定期的にみれるということもあって生涯学習センターにしている。

⇒データそのものよりも、子どもたちの環境学習支援のほうにウエイトをおいている。グローブに参加することで、環境についてグローバルな視点が養われる。

- ・世界とつながっていることを実感することを通じながら環境教育を高めていく、それはグローブプログラムでないとできないのか。データを取ることのウエイトが低いといわれたときに、そのウエイトが低い部分の活動の費用が一番大きい。そこがちょっと分からない。

⇒実際に環境活動は様々あって、ウエザーステーションでなければ出来ないものではない。ただ、ウエザーステーションでこのようなプログラムがあって子どもたちが広く参加できるということを子どもたちに伝えていくということと、これをとっかかりに、このプロジェクトに参加した子どもたちが例えば環境こどもサミットに参加するとか、単にアメリカの事務局にデータを送るだけでなく、こういう活動をしているというのを日本全国に発信していく、そういうこともできることを子どもたちに教えていきたい。

- ・幹事会では既存のプロジェクトでは生涯学習センターの屋上に設置するというので設置についてと来年度の予算でOKを出したが、今後ウエザーステーションプロジェクトとして動き出したときに、設置場所の変更を考える余地はあるのか。

⇒トイゴに置くというのは変わらない。そこを拠点にして同じ機器とは限らないが、置くところを広げていきたい。

- 屋上には上がれるのか。  
⇒上がる。管理者の立会いのもとで。
- 空調の機械とかは大丈夫なのか。  
⇒それは大丈夫
- 小学校にはこういう温度計はないのか。  
⇒あるにはあるが、ほとんど使われていない。  
⇒小学生に自動のデータログがついた温度計が必要かどうか。温度計で毎日測ってそのデータをグローブ事務局に送ったほうが、よっぽど小学生らしいと思うのだが。  
⇒この場合、当事者もいないし、これに関する専門家もいない。憶測だけで話をしてはだめだと思う。気象データは芝生の広さで 1.5m のところで測ることになっているから、気象データにはならない。それでもなお、ここでやりたいのであれば、説明しきれない人がいないと。グローブで何をどうみたいのか良く分からない。今世界では最高温度と最低温度を集めようという動きはあるが、そのあたりを説明できる人がいないと難しいのでは。  
⇒例えば、今日はこのプロジェクトは審査しないで、もう一度提案書を出してもらって、予算的なものは分からないが、それで審査したほうがいいのではないかと。  
⇒あわせて、総合センター設置チームのことを先に出してもらったほうがいい。  
⇒子どもの環境学習支援とリンクしてくる。  
⇒ただ、母体が違う。  
⇒グローブプロジェクトは是非やっていただきたい、大変いいプロジェクト。だからもう少しまい方法、簡単に出来る方法はないか。  
⇒でもそれは、センター設置チームで設置したいと言っていたときからあった話。  
⇒グローブプログラムではこういう機器を使うことになっている。メーカーの指定までではないが。  
⇒それで20数万の測定器を買うなら、後町小でも鍋屋田小でもいいからそこに百葉箱をおけば使えるもの(データ)が出る。トイゴの屋上だとかなり特殊なデータになってしまうので、いかがなものか。どうせなら(データが)使える場所において欲しい。本当は後町小の跡地利用であればとてもいいが。緑も豊かだし、まわりの輻射熱もあまり届かないところなので、長野市を代表する気温が取れるのでは。  
⇒気象庁にそのあたりを勉強にいて、正しい知識を身につけてそのあとどのようにリンクするかは分からないが、そういう方法もあるのではないかと。  
⇒そのあたりのすり合わせもしていただければ、すごくいいプロジェクトになるのではないかと思う。  
⇒市立博物館の一角に作ってもらうとか。  
⇒(センター設置チームが)他の市町村でそういうのをみてきたから、やりたい、というのものもあるのかも。  
⇒このまま判断するのは難しい、内容としては悪くはないので、今回は審査をしないということにしたらいかがか。  
⇒このウェザーステーションプロジェクトの計画の中で、6月に学習会が計画されている。これは、その学習会に参加した子どもたちに、ウェザーステーションにも関わってもらえる人を募集する意味も兼ねて計画しているが、それがかなり動き出して、参加募集をしている状況。  
⇒そこでこの最高最低温度計を使うのか。もう購入したのか。  
⇒学習会で使うもの。購入はまだしていない。  
⇒センター設置チームで学習会までやるというなら、測定器のお金を返上してもらって、そこで最高最低温度計のほうに新たに、というなら比較的とおりがやすい。本当は本人(チームリーダー)がいてほしいが、いなくても可能性はあると思うが。それをウェザーステーションプロジェクトが、といのは難しいと思う。  
⇒総合センターのチームと連携して学習会が動いているわけではないのか。  
⇒連携している。

- ⇒ならばセンターのほうで学習会をやらしてもらえば。やることはとてもいいこと。
- ⇒では、このプロジェクトについては、審査対象からはずしてもう少しまとめて来期に提案していただくということでもいいか。
- ⇒このプロジェクトに関しては、来期の中でうまくまとまってきたらすぐにでも出してもらって、どんどんすすめていただけるならやらせていただく、審査はするとして。1年待ってくれというのは困るけど。

◎不採択となったプロジェクトへの連絡について

ここであった質疑の内容も含めてお知らせし、今度また通る形で出しなおしてもらうように働きかけを事務局にお願いしたい。

◎これからの新規プロジェクトのスケジュールについて

- ・今回はイレギュラーな形だったが、これからの新規プロジェクトについてはしっかりスケジュールを決めたほうがいい。
- ⇒いつでも出していいようにはなっている。

○第2回総会について

- ・総会の出席状況について、現在、定則の半分以上は超えている。
- ・P会議の概要は事務局から説明する。
- ・活動報告は以下の順番でチームリーダーから報告していただく。  
水環境保全⇒光害対策⇒センター設置⇒事業者の環境ISO支援⇒学校版EMS⇒生ごみ削減⇒トレイ・レジ⇒市民の森⇒太陽エネルギー普及促進
- ・戦略会議の報告は事務局からする。
- ・収支決算については事務局から説明、監査報告は海沼監事からする。
- ・活動報告と22年の活動方針・計画についてまとめてリーダーからお話いただく。4分くらいで。
- ・決議は活動報告から会則の改正まで、すべてとる。
- ・会費について事務局から説明する。
- ・活動報告について、4月末から今までのミーティングなどでの活動人数が入っていないものがあるので、総会までに確認する。
- ・予算執行について、会議旅費や運営費など、まだ若干反映していないものがあるので、今月中に反映させて監査に出したい。
- ・活動方針・目標・計画について、これが最終形だが、再度確認いただき、訂正箇所あれば事務局へ連絡いただきたい。センター設置チームについては活動計画を再度練り直す。
- ・採択された新規プロジェクトについて、これからの活動計画を会員に紹介する。既存のプロジェクトと同様ではなく、これから動き出すプロジェクトだということが分かるようにする。そして、総会の席でお話いただきたいと伝える。
- ・予算について、各プロジェクトの予算で出していた予算から削っているものがある。内容は以下のとおり  
水環境保全 需用費 10,000円 光害対策 報償費 10,000円  
学校版 旅費 10,000円、需用費 50,000円  
生ごみ 旅費 36,000円、需用費 10,000円  
トレイ・レジ 需用費 50,000円 市民の森づくり 需用費 50,000円  
太陽 旅費 50,000円、需用費 20,000円  
ただ、事務局ではどこを削ったらまずいのか不明なため、どうしても困ることがあればご連絡いただきたい。
- ・ライトダウンキャンペーンについて、渡辺幹事から企画について説明があった。キャンペーンの費用は今まで長野県地球温暖化推進員の研修費用という名目を出していた環境省からの補助金(30万円)が今年は事業仕分けの対象になって出なくなった。環境保全協会では5万円の補助金を出してくれるということだが、P会議でも協力をいただけない

いか。そして、今年もライトダウンキャンペーンの参加登録先として P 会議のホームページを使わせていただきたい。長野市のライトダウンは名前だけ登録、環境省への登録は具体的な行動(電気をどのくらい消すとか、CO2 をどのくらい削減したか)も併せての登録なので、ホームページから環境省に飛べるようにはするが、別の登録とする。  
⇒これについては、P 会議で参加するかどうかをまず決めて、それから予算をどうするかという話になるので、まず P 会議として参加するかどうかを決めたい。  
⇒当初は実働部隊がどこなのか、とか分からない部分もあったが、市も JR も駅の周りの企業も協力してくれるところも出てきているので、ぜひ続けられるようにご協力いただきたい。  
⇒光害(プロジェクト)は実行委員会に入っているか。  
⇒入っている。  
⇒3万円ほしいということか  
⇒そのとおり。  
⇒光害プロジェクトの予算には入れられないのか。  
⇒光害では冬にコンサートをやる予定。6月はやらないようだ。  
⇒22年度の予算でやるのであれば、この予算書に盛るかどうかの問題。  
⇒新規プロジェクトの予算から3万円差し引いてライトダウンのお金として支出すれば。  
⇒予備費が今のままだと全く無い。新幹事がフリーハンドで使える部分がないので、できれば新規プロジェクトを減らしたい。今新規プロジェクトが72万円あるので、20万円ほど予備費に移せないか。  
⇒20万円を予備費に置いておいて、そこからの支出はまた新幹事でご相談いただく。  
⇒では、予備費は20万円、ライトダウンは広報費・負担金で支出。

## VIII その他

- ・電気自動車を長野市に導入する。そのシンボルマークの募集を開始する。6月1日の広報に詳細を掲載するので、ぜひ応募してほしい。賞金は1万円。